

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	コード	名称	会計	コード	名称	
808	808	商店街振興事業	01	01	一般会計	
基本施策	45	住む人にとって魅力ある商店・商店街をつくる	07	07	商工費	
			01	01	商工費	
			02	02	商工振興費	
担当部課名	産業振興部 商工政策課		102	102	商店街振興事業	
作成者氏名	川崎末博	連絡先	22-9672 (内線2750)	細々目	01	商店街振興事業

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)				
銀座商店街振興組合		銀座商店街振興組合の実施する近代化事業に対して補助することにより、商店街を活性化させる 現在のところ、19年度以降商店街近代化事業の予定はない				
本年度事業内容	商店街近代化事業補助金					
開始年度	平成	年度	終了年度	平成	年度	根拠法令・要綱等

投入資源

		H17	H18(予算)	H19(予算)
投入人員	正規職員 (人)	0.1	0.1	
	人件費合計(A)	720	720	0
支出内訳(千円)	事業費(B)	1,500	900	0
	委託料			
	補助金	1,500	900	
	その他			
合計(A+B)		2,220	1,620	0
財源内訳(千円)	特定財源			
	国県支出金			
	地方債			
	受益者負担			
	その他特財			
一般財源	2,220	1,620	0	
上記 ~ に関する特記事項				

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
事業実施数	件	10	12				

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
事業実施数	年間を通しての商店街振興事業に対する補助であるため、把握するものが事業数しかない	件	10 目標 ()	12	
			目標 ()		

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

中心市街地におけるメイン通りの商店街であり、その事業により商店街の活性が図られているが、空き店舗・空き地等空洞化が起きている。しかしながら、銀座商店街の振興事業により歩行者・来訪者が増え、賑わいを取り戻す事業が必要

現在のところ、19年度以降の商店街近代化事業の予定はない

評価	必要性	4	中心市街地の商業活性化に欠かせない商店街事業であるが、現在のところ19年度以降の商店街近代化事業の予定はない。	総合評価 A
	有効性	4		
	達成度	4		
	効率性	4		